



人と人を結ぶボランティア活動

日出学園中学校 二年 金坂 友俐

どうしたら、犯罪や非行のない地域社会づくりができるか、それは感謝の気持ちが巡る「ボランティア活動に参加すること」「を誰もが当たり前にすることだと僕は考える。」

小学高学年の頃、僕は本格的に水泳の練習をクラブチームで夜遅くまで行うようになり、朝起きるのが辛い日が続いた。学校休んでしまおうかな…遅刻してもいいかな…と布団の中で何度も頭によぎるけれど、いつもの横断歩道でボランティアのおじさんが待っているだろうなあと思うと、行かなきゃ！と弱い気持ちを跳ね除け起き上がることができた。時間がギリギリでも当たり前のように、「おはよう」と見送ってくれること。それが大きな励みになり、学校も水泳も両立する自信に繋がった。卒業式の日、ボランティアの方にお礼を伝えるに行った。僕がお礼を言うと「私の生きがいなんだよ」と話をしてくれて驚いた。そしてボランティアについて調べて考えてみた。

ボランティア (Volunteer) は、ラテン語で自由意志「ボラ

ンスタ」が語源と言われていて、自ら進んでみんなのために社会貢献活動をする人(個人)を意味する。ボランティアの人達が集まって、団体として活動すればNPOと言われることもあると説明されている。ボランティアは金銭的な報酬はない。だけれど誰かの役に立つことが自分をたかめて生きがいになる。毎日、同じ時間に同じ場所に立つために健康に気をつける。家族が病気になったら看病でボランティアへ行けなくなってしまう。家族の健康にも気を配る。感謝される。ありがとという想いが巡る。循環する。ボランティアをやることで、人と繋がる。新しい出会いがある。人と出会うことで自分が成長できる。さらに自分自身を大切にできる。

結局、自分のためにボランティアに参加しているのに誰かの役にも立てるのがボランティアなんだ！と気がついた。それまで自分の中でボランティアは偽善的なイメージだったのが一転、興味を持つきっかけになった。

意識が変わり、初めてボランティアを体験したのは自分が通っているスイミングクラブで開催される大会の審判員だった。小学生までの大会の為、中学生になると審判員として参加できる。いつもとは違う立場で大会に参加できることに楽しみと同じくらい緊張を感じた。

以前の僕だったら、ボランティアの審判員に対してレースに参加しない気楽な立場でいいなあお弁当も出るし…なんて思っていた。また、ボランティアは良い事を進んでやるいいことばかりこのイメージがあったから恥ずかしさを感じただろう。しかしボランティアに対する概念が変わりつつあったから、自分のために参加するんだという堂々とした気持ちで湧いた。さらに、僕が日頃出場している県内の水泳大会もたくさんのボランティア審判員さんのおかげで運営できている。わざわざ休みの日を潰してまで審判員として参加する方々の気持ちが自分にも少しはわかるかもしれない。そんな気持ちで初めてのボランティアに僕はチャレンジした。

まず目標を立てた。困っている人が話しかけやすいように周りに気を配る。自分から積極的にやることがないか声をかけて仕事を探す。の二つだ。実際やってみて感じたことは、誰かの役に立てた事でとても清々しい気持ちになること、そしてボランティア活動は自分次第で自分自身と向き合えるということだ。

最低限やることは決まっているから黙々とこなすことを楽しむことも出来る。僕のように目標を掲げ空回りしながらも四苦八苦することも出来る。参加することでまず受け入れられる。活動する人はそれぞれ尊重されているように感じた。

調べてみると、県内でも一日だけのものを含めすべに参加できるボランティアは数多くある。しかし自分から申し込むことはハードルが高い。例えば、小学生でクラブ活動という時間と同じようにボランティア活動というカリキュラムがあったらどうだろう。今回僕が体験したような考えや思いを多くの人が感じることが出来る。地域の様々な年代の方との出会いも広がる。僕とボランティアのおじさんのようにお互い支え合う信頼関係を自然と築くこともできる。それは自分を信じることで、自分の行動に責任を持つ自信がつくことにつながると思う。そして何よりも自分自身を大切に出来る気持ちや出会う人へ感謝の気持ちが出てくる。

このように誰もが当たり前前にボランティア活動に参加するようになることで、人と人がつながり支え合える。お互いを見守ることが犯罪や非行のない地域社会づくりの土台になるのではないかとこの考えにたどり着いた。

みなさん、僕と一緒にボランティア活動に参加してみませんか。